

令和2年度自己評価表

【中長期目標(学校ビジョン)】

【今年度の重点目標】

岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実に対応でき、他者と「協働」して物事に取
り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。

- 1
- キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。
- 2
- 部活動を推進し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。
- 3
- 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。
- 4
- 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。
- 5
- 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。

	具体的項目	令和2年度当初			評価結果(月)		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
充実 キャリア教育の	進路実現	・3年生進路目標達成は100%。第1志望での合格・内定率は、90%だった。 ・2年生の2月末における進路希望未決定者は、2%（1名）である。 ・より高い志望の実現という点では、鳥取大学AO入試にチャレンジし、見事に合格した。 ・就職1年以内の離職率が2/33で約6%となり、一昨年35.3%、昨年21.9%と比べ激減した。（県平均約16.2%）	・進路目標達成率100% ・第1志望での合格・内定率90%以上。 ・2年生2月現在の進路志望未決定者5%未満。 ・就職1年以内の離職率を県平均以下とする。	・進路選択、進路志望決定等の場面における各種ガイダンス、事業所説明会等の充実。 ・担任や進路専任による個人面談の充実。 ・定着指導の徹底を継続する。 ・高い目標を掲げ、進路決定に主体的、積極的に果敢にチャレンジさせる指導をする。			
成長 心身のバランスのとれた人間の育	部活動の振興	・部活動全員加入を原則としているが、年度当初時点で未加入者は2年5名、3年2名。	・全員加入の継続。 ・部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。	・部活動指導計画に基づいた適切な運営をとoshi、技術向上のみならず人間的な成長を支援。 ・部活動から逃避しがちな生徒に対する、継続、変更に向けた支援。			
	基本的生活習慣の定着	・頭髪服装再検査者数は、月によってまちまちではあるが、クラス平均5人以内は達成できていない。頭髪については軽微な違反がほとんどであり、細かく指導していただいた結果と受け止めている。 ・12月の学校評価アンケートの生徒の回答をみると、7月と比べ挨拶や返事についての意識が高まっている。頭髪服装や日常生活のマナーの意識も例年と比べ高い。	・頭髪服装指導において再検査を受けなければならない生徒の減少。 ・挨拶、返事、頭髪服装等の基本的な生活態度が良好な状態が維持され、生徒の肯定的自己評価が90%以上、職員の肯定的評価が80%以上となる。 ・TEASの取組を通して、ゴミの分別・減量化やエアコン等使用電力量の削減に意識して取り組むことができる。	・日常的な指導と定期的な全体指導の充実。 ・指導ノートの有効活用。 ・生徒・保護者への丁寧な説明と適時な連携による指導の徹底。 ・各学年、授業担当者との緊密な連携。 ・TEAS研修会の実施と時宜を得た指導の実施。			
	豊かな人間関係づくり	・SNSを通じた人間関係のトラブルが存在。 ・周囲への配慮に欠けた言動をとる生徒がいる。	・SNSの適切な利用、携帯電話等のマナーが定着。 ・周囲に配慮した言動ができる。 ・生徒にとって学校が安心で安全な場所である。	・全校集会・学年集会・HR等、あらゆる機会を通じて、ケータイ・スマートフォンの扱い方やSNSの危険性について啓発活動を行っていく。 ・情報モラル講演会等を早期に実施。			
主体的学びの支援	基礎学力の向上	・生徒の基礎学力の向上感は約90%を超えているものの、客観的に高校学習水準に到達しているかどうかは懐疑的である。 ・家庭学習時間の通年平均は昨年より増加の傾向を示しているが、実態的には習慣化に至っていない。 ・現2年生では、2回目の基礎力診断テストにおいて、1回目の結果と比較してかなり成績が上昇した。	・課題や学校での学習の分量に応じた家庭学習が継続して行われている。 ・保護者アンケートで「家庭学習が毎日1時間以上できている」に肯定的な意見が40%以上。 ・1・2年生の基礎力診断テストにおいてD3ゾーンの生徒数が年度初めより20%以上減少する。	・リスタート学習における適切な指導。 ・家庭学習が見込まれる課題の提示と、適切な評価の実施。 ・基礎力診断テストにおいて事前事後の取り組みを行う。			
	学習指導の改善	・主体的な学びに繋がる学習支援の維持ができている。 ・授業の改善や工夫の取り組み状況は、ある程度の水準を維持しているものの、まだ意識の高揚を図る必要がある。	・授業に関する評価で肯定的な評価をする生徒が各項目とも85%以上。 ・「一人一人を大切にしたい指導やわかりやすい授業が行われている」と回答する保護者が80%以上。 ・授業の改善に関する職員評価で肯定的な評価が各項目とも80%以上。	・ICTの活用、ALの実践などを通じた学習意欲の喚起。 ・授業参観の促進や授業研修会を充実し、校内の学習指導改善の体制作りを進める。			
の 伸 長 自己肯定感	教育環境の改善	・生活満足度調査ではやれができと思っている生徒が27%いるにもかかわらず、何をやってもうまくいかない気がすると感じている生徒が、10%弱いる。 ・孤立感を覚えることがある生徒は10%弱いる。 ・岩美高版UDを意識して効果的な指導・支援に取り組んでいる教員の割合が72%。	・一人一人の生徒の自己実現を目指し、あらゆる教育活動の中で生き生きと活動できるように援助・支援する。 ・岩美高版UD意識して効果的な指導・支援に取り組む教員の割合が8割以上。	・生徒観察、個人面談や個別学習指導、保護者や関係機関との連携等に努め、個に応じたサポートを実施する。 ・生徒の自己理解、他者理解を深め、自己肯定感を高めるためのヒント等を教職員向けに情報発信する。 ・岩美高版UDチェックリストを点検し、教職員各自が取り組みやすいように改善工夫する。			
た 学 校 地 域 と 連 携 し	岩美町との効果的な連携	・地域と連携した活動に対し概ね理解が得られている。 ・岩美町内の資源や人財等の活用が大いに図られている。 ・岩美町配置の地域連携コーディネーターが廃止	・地域連携、地域貢献の取組を通して、生徒が、自らが居住する地域を支える存在であることを自覚する。 ・「地域に貢献したい」と思う生徒の割合が全校の8割以上	・岩美町役場等との効果的な連携を図る。 ・イワッツミッションについて講師、担当教員との協議を重ね、活動内容を充実させると同時に授業時間を確保する。			
	授業・部活動等を通じた地域連携の実施	・地歴、体育、農業、福祉の授業、陸上競技部、野球部、ソフトボール部、バレーボール部、茶道同好会、吹奏楽部が地域と連携した取組みを実施。 ・町内事業所の校内企業説明会の実施。	・参加した生徒の自己有用感が向上し、人間的に成長する。 ・「地域の行事や活動に参加（授業を除く）した」延べ生徒数が学校の生徒数以上 ・毎年1～2名の地元町内企業や事業所への就職者を増やす。	・生徒、職員に過重な負担がかからないように配慮しながら、可能な限り地域の要請に応える。 ・ホームページ掲載、報道機関への資料提供など情報発信に努める。 ・昨年度実施した地元企業説明会を今年も継続して実施し、参加企業を増やす。			